2025 年度

事業報告書

当財団の事業目的は宇宙科学に関する事業への援助及び研究助成等を行い、宇宙科学の振興に寄与することである。この目的に沿って行った公益目的事業は、(1) 宇宙科学奨励賞顕彰事業、(2) 国際学会出席旅費支援事業、(3)国際学会開催支援事業の 3 事業である。2025年度は、いずれの事業についても予算の範囲内で例年通り実施した。一方他団体が中心となって企画・運営される宇宙科学の知識の普及・啓蒙活動に対する一般支援助成についても、予定したイベントの全てについて法人会計の管理費内で実施した。

当法人の管理・運営は、昨今の低金利の金融情勢による収益確保が厳しい中、極めて経費を節減した方法ながら、関係者の協力の下で例年通り進められた。なお、一部の管理・事務作業はリモートで実施した。

Ⅰ．公益目的事業

（1）宇宙科学奨励賞顕彰事業

宇宙科学奨励賞は、宇宙理学・宇宙工学の分野で優れた研究業績をあげ将来宇宙科学推進の中心となることが期待される若い研究者を顕彰し、宇宙科学分野の進展に寄与することを目的として、当公益財団法人の前身の財団法人宇宙科学振興会において2008年度に創設された。この事業ではまず関係学会（2025年度現在は11学会）の研究者に候補者の推薦を依頼し、宇宙科学各分野の当該年度4月1日時点で37歳以下の若手研究者（この年齢制限は大学院修了後約10年間を目途とするとの趣旨）のうちで最近著しい成果を挙げている若手研究者を推薦していただく。寄せられた推薦に基づいて、各分野の有識者で構成される選考委員会により候補者の審査・選考を進める。選考委員会は原則として宇宙工学関係から1名、宇宙理学関係から1名、合計2名の候補者を選出する。理事会は選考委員会の推薦に基づいて当該年度の授賞者を決定する。

第18回目となる2025年度の公募では、関係の各分野の研究者から、理学系3名、工学系3名、合わせて6名の授賞候補者の推薦を受けた。2025年11月21日に第1回、2025年12月9日に第2回の選考委員会が開催され、その間及びその後のメール連絡を含めて審査選考が行われた。審査の結果、理学分野では福岡教育大学教育学部・講師　水本　岬希氏に対して、その研究題目「コンパクト天体からのアウトフローに関する研究および装置的貢献 」を対象として、工学分野では宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 宇宙機応用工学研究系・准教授 尾崎 直哉氏に対して、その研究題目「高頻度な小惑星探査を実現する軌道設計・最適化手法の確立と実装」を対象として、第18回宇宙科学奨励賞を授与することとなった。授賞者には賞状、表彰楯の他に副賞30万円が授与された。

2025年度は、従来通り受賞記念講演会を含む表彰式を実施し、ご来賓と関係者にご参加いただき、3月5日に都内のホテルにて開催した。表彰式は外部からオンラインでも参加可能とし、会場及びオンラインでの参加者数は例年とほぼ同じ50名程度であった。

（2）国際学会出席旅費支援事業

この事業は当財団が公益財団法人に移行する前の財団法人宇宙科学振興会により 1997 年度に創設された。当初より宇宙理学及び宇宙工学に関する独創的・先駆的な研究活動を行っている当該年度 4 月 2 日時点で 35 歳以下の優れた若手研究者に対して、海外で開催される国際学会に出席する費用の支援を行ってきた。2006 年度以降は、大学や研究機関などを退職後も活発な研究活動を行っている 63 歳以上のシニア研究者に対しても支援を行っている。

国際学会出席旅費支援の申請は当財団の研究助成審査委員会において採否が審査される。審査の結果採択された助成対象者は、その発表論文テーマ、国際会議名、開催場所、日時等の情報とともに財団のホームページに公表される。渡航後には国際会議で発表の成果についての報告書を渡航 1 ヶ月内に提出頂き、提出された報告書は財団のホームページに掲載される。

2025 年度前期に当たる 2025 年 4 月～9 月の間に開催される国際学会への出席に対しては、2025 年 2 月 28 日に応募を締め切った。また 2025 年度後期に当たる 2025 年 10 月～2026 年 3 月に開催される国際学会への出席に対しては、2025 年 8 月 31 日に応募を締め切った。

本年度の公募は、財団の公式ホームページの他に関係 11 学会の学会誌または学会ホームページを通じて通知された。採択者には 1 件当たり 10 万円～30 万円の範囲で助成を行うこととしており、2025 年度の予算（210 万円）では 10 件程度の国際学会出席旅費支援を予定したが、2025 年 2 月 28 日締切りの公募に対し 8 件の応募、8 月 31 日締め切りの公募に対しては 10 件の応募があり、合計 7 件（応募者総数 18 件、採択率約 39%）が採択された。2025 年度の助成額は 168 万円であった。表 1 に助成者の一覧表を示す。

表 1　2025 年度　国際学会出席旅費支援　助成者一覧表

所　　属	氏　　名	国際研究集会の　名称	主催団体	開催地	期　間
東京大学理学系研究科天文学専攻博士課程 1 年	望月　雄友	クリズム サイエンス チーム ミーティング 8 XRISM Science Team Meeting #8	XRISM project	ライデン大学 オランダ	2025.7.7 -2025.7.10
青山学院大学　理工学研究科　理工学専攻　博士前期課程 2 年	岡田　佳純	第 39 回宇宙線国際会議 39th International Cosmic Ray Conference (ICRC 2025)	the Commision C4 (Astroparticle Physics) of the International Union of Pure and Applied Physics (IUPAP)	ジュネーブ スイス	2025.7.15- 2025.7.24

京都大学大学院工学研究科　修士課程２年	鈴木　颯	第30回爆発・反応系ダイナミクスに関する国際コロキウム 30th International Colloquium on the Dynamics of Explosions and Reactive Systems (ICDERS 2025)	Institute for Dynamics of Explosions and Reactive Systems (IDERS)	オタワ大学 カナダ	2025.7.27 -2025.8.1
東京大学大学院工学系研究科　航空宇宙工学専攻　D3	Satpathy Dibyesh	電気推進国際会議 International Electric Propulsion Conference (IEPC)	Electric Rocket Propulsion Society, American Institute of Aeronautics and Astronautics	イギリス・ロンドン	2025.9.14 -2025.9.19
広島大学 博士課程後期３年	榧木 大修	第14回国際広島会議：半導体検出器の開発と応用 The 14th international ″Hiroshima″ Symposium on the Development and Application of Semiconductor Tracking Detectors	Academia Sinica (中央研究院(台湾))	台北 台湾	2025.11.16 -2025.11.21
独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 日本学術振興会特別研究員 (PD)	鈴木 雄大	アメリカ地球惑星科学連合年会2025 AGU Annual Meeting 2025	AGU (American Geophysical Union)	ニューオリンズ アメリカ	2025.12.15 -2025.12.19
宇宙航空研究開発機構 助教	伊藤 琢博	2026年アメリカ航空宇宙学会科学技術フォーラム 2026AIAA SciTech Forum	American Institute of Aeronautics and Astronautics (AIAA)	フロリダ アメリカ	2026.1.12 -2026.1.16

（３）国際学会開催支援事業

宇宙科学分野（宇宙理学、宇宙工学）の国際学会・研究集会を日本国内で開催する組織・団体に対する支援は前身の財団法人宇宙科学振興会の創設（1990年）当初より行われてきた。ただし、当初は宇宙科学分野の国際学会・国際研究集会の主催は宇宙科学研究所の研究者が行うことが多かったので、全国公募ではなく宇宙科学研究所内部の研究者または衛星プロジェクトなどで宇宙科学研究所と共同研究を進めている各大学の研究者を対象とする内部応募の形式となっていた。その後この助成事業に対し全国的に関心・期待が高まってきたことを受け、2007年度よりこれを宇宙科学研究所の事業に限らず理論的研究等も含めて、全国の研究機関・大学において宇宙理工学に関する国際学会・研究集会を主催する場合には広く応募できるように、全国の研究機関・大学を対象とした公募型事業に発展させてきた。公益財団法人宇宙科学振興会に移行した後においてもこの事業を継続している。

国際学会・国際研究集会開催の支援の申請は、国際学会出席旅費支援の申請と同様、当財

団の研究助成審査委員会において採否が審査される。応募総数に対する最近の採択率は平均して２分の１程度である。年度の上半期（4 月～9 月）開催分の応募の締め切りは前年度 2 月末日とし、下半期（10 月～3 月）開催分の応募申請の締め切りを 8 月 31 日として実施している。

本年度の公募は、財団の公式ホームページの他に関係11学会の学会誌または学会ホームページを通じて通知された。採択された国際学会・国際研究集会に対し、1件当たり20～50万円の範囲で助成を行うこととしており、2025年度の予算（100万円）では3～5件程度の国際学会・国際研究集会開催支援を予定したが、2025年2月28日締切りの公募に対しては2件の応募があり、8月31日締め切りの公募に対しては応募は8件であり、合計5件（応募件数10件、採択率50%）が採択された。2025年度の助成額は140万円であった。表2に助成した国際学会の一覧表を示す。

表2　2025年度　国際学会開催支援　助成学会一覧表

国際学会 名称	主催団体	代表者	代表者所属	開催地	期間
第１７回高エネルギー天文学較正国際コンソーシアム（IACHEC）会議　17th International Astronomical Consortium for High Energy	Calibration (IACHEC) meeting IACHEC2025 開催実行委員会（愛媛大学、埼玉大学、奈良教育大学、東京大学、宇宙科学研究所）	志達　めぐみ	国立大学法人 愛媛大学 大学院理工学研究科　准教授	ホテルフクラシア大阪ベイ	2025.5.12
第 22 回プラズマ中原子過程に関する国際会議 22nd International Conference on Atomic Processes in Plasmas (APiP 2025)	APiP2025 国内組織委員会	中村　信行	電気通信大学　レーザー新世代研究センター教授	東京都立大学南大沢キャンパス	2025.7.21
Ｘ線分光撮像衛星（クリズム）国際会議２０２５ XRISM International Conference 2025	XRISM International Conference 2025 組織委員会	山口 弘悦	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 宇宙物理学研究系 教授	京都府民総合交流プラザ 京都テルサ（京都市）	2025.10.20 -2025.10.24
太陽系科学シンポジウム 2026 Solar System symposium in Sapporo 2026	東京大学	橘 省吾	東京大学 大学院理学系研究科　宇宙惑星科学機構　教授	ルスツリゾート	2026.2.9 -2026.2.11
ALMA 望遠鏡と JWST のタッグで探る宇宙再電離期の星形成活動 Star Forming Galaxies in the	ALMA ワークショップ 2025 開催委員会	札本 佳伸	千葉大学 先進科学	沖縄県石垣市大濱信泉記念館	2026.3.17 -2026.3.20

Reionization Epoch: ALMA-Driven Studies with the Aid of JWST			センター特任助教		

なお、公益目的事業(1)～(3)の 2025 年度の事業別応募採択数を、参考資料として本報告書に添付している。

Ⅱ．財団の管理運営等法人会計関係

現在当財団は神奈川県相模原市に所在する国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所内に一室を借用しこれを事務室として、非常勤事務局長 1 名、非常勤事務職員 2 名の計 3 名体制で財団の管理運営を行っている。

(1) 宇宙科学に関する一般支援助成

一般支援助成の目的は、広く一般国民に対して宇宙科学に関する知識を普及するとともに、若者の宇宙科学に関する興味・関心を深め、宇宙科学の将来の発展に寄与することである。本助成は一般国民、青少年を対象に同様の目的で活動する他団体と連携して行う。

2025年度に一般支援を行なった支援先は表3に示す通りである。本助成は他の組織・団体が企画・運営の中心になっている事業への支援であるため、公益財団法人への移行後は管理費（法人会計）から支出することとしている。2025年度は6件について助成を行い、支援額は合計**約79万円**であった。

表 3　2025 年度　宇宙科学に関する一般支援助成

支援内容	支援先
第 35 回（2025 年）宇宙技術及び科学の国際シンポジウム（ISTS）2025 年 7 月 12 日～18 日開催	一般社団法人　宇宙技術および科学の国際シンポジウム運営事務局
第 21 回 能代宇宙イベント　2025 年 8 月 14 日～22 日開催	一般社団法人あきた宇宙コンソーシアム
第 47 回モデルロケット全国大会　2025 年 10 月 4 日開催	日本モデルロケット協会
2025 年度 JAXA/相模原キャンパス特別公開　2025 年 10 月 11 日開催	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所
多摩六都サイエンスレクチャー　2025 年 11 月 8 日、2026 年 2 月 22 日	多摩六都科学館
第33回 衛星設計コンテスト　2025年11月22日開催	一般財団法人日本宇宙フォーラム

(2) 基本財産の現況と運用

2025 年度末における基本財産総額は約 4 億 2392 万円であり、基本財産の運用に伴う果実（基本財産受取利息）は約 195 万円（約 0.46%）となり、前年度実績より約 78 万円の減少となった。

(3) 賛助会員の加入状況

2025 年度の会員数は、12 法人（25 口※）であった。　（※ 賛助会費 1 口 10 万円）

(4) 理事会、評議員会の開催

2025 年度には次の通り理事会、評議員会を開催した。

・2025 年 5 月 27 日：宇宙科学研究所 A 棟 4 階会議室及びオンラインにおいて、第 44 回理事会を開催した。「2024 年度事業報告及び財務諸表等承認の件」、他 4 議案について承認・可決を行った。

・2025 年 6 月 11 日：KKR ホテル東京　11 階「白鳥の間」及びオンラインにおいて、第 20 回評議員会を開催した。「2024 年度財務諸表等承認の件」、他 3 件について承認・可決を行なった。/・評議員会終了後　第 45 回理事会を開催し、理事長及び常務理事を選定した。

・2025 年 9 月 18 日:第 21 回評議員会（書面）を開催し、書面決議により評議員会長を選定した。

・2026 年 1 月 5 日:第 46 回理事会(書面)を開催し、2025 年度第 18 回宇宙科学奨励賞の授賞者決定に係る書面決議を行った。

・2026 年 3 月 5 日：KKR ホテル東京　11 階「竹の間」及びオンラインにおいて、第 47 回理事会を開催した。「2026 年度事業計画及び収支予算案提案の件」、他 3 件について承認・可決を行った。

Ⅲ. 附属明細書について

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」は存在しない。

以上

（参考資料）

2025 年度　事業別応募採択数（公募年度で集計）

（2025 年 4 月～2026 年 3 月）

1) 宇宙科学奨励賞顕彰事業

	応募申請 （件）	採択 （件）	賞金 （￥）
10/31 締切	6 (理 3・工 3)	2 (理 1・工 1)	600,000

2)　国際学会出席旅費支援事業

	応募申請 （件）	採択 （件）	採択額 （￥）
8/31 締切	10	3	550,000
2/28 締切＊	17	4	1,140,000
計	27	7	1,690,000

＊2/28 締切の助成は、2026 年度前期（2026 年 4 月～9 月）に実施予定のため、2025 年度事業報告書本文の集計には、件数、採択額ともに含まれない

3)　国際学会開催支援事業

	応募申請 （件）	採択 （件）	採択額 （￥）
8/31 締切	8	3	900,000
2/28 締切＊	3	2	500,000
計	11	5	1,400,000

＊2/28 締切の助成は、2026 年度前期（2026 年 4 月～9 月）に実施予定のため、2025 年度事業報告書本文の集計には、件数、採択額ともに含まれない。